



故 藤井 學 会 長 を 偲 ん で

鈴木 素彦*

本協会会長藤井 學京都大学教授は、平成9年9月13日（土）急逝されました。同日午後その第一報を受けたとき、あまりにも突然のこととて、只々絶句し驚嘆に倒るるばかりでありました。

9月10日から東京八王子市（中央大学）で開催された土木学会にご出席され、大勢の官学産の各関係者とお元気に研究に関する会話をされ、また、9月15日にはIABSE（International Association for Bridge and Structural Engineering）の国際会議ご出席のための準備等々のお話をさせていただきに、聞くものには一様に信じ難いご訃報であり、寂莫痛恨の極みであります。

藤井会長は、昭和11年5月福山市において呱呱の声をあげられ、幼少期から俊秀の誉れ高く昭和31年京都大学に入学、同35年3月にご卒業され、更に同大学大学院工学研究科に進み、同37年修士科を修了されました。学究者として直ちに助手になられ、のちに神戸大学教授、また、昭和62年には母校京都大学教授に就任され、その間に幾多の有為の人材を各界に送り出されました。

会長は今日まで土木工学研究一筋に打ち込まれましたが、なかでも、特にプレストレストコンクリート構造学を主研究分野とされ、PC構造の耐荷挙動を多岐にわたる材料との組み合わせを考慮したうえで実験的および解析的に明らかにした多数の独創的かつ先駆的な研究に取り組みされました。研究課題は大別すると次のものが挙げられます。

1. フレッシュおよび硬化コンクリートならびに鋼材の基本的性質に関する研究
2. RCおよびPC部材の基本的性質に関する研究
3. プレテンション・ポストテンションPC部材の定着部および断面急変部に関する研究
4. PC舗装、PC杭、PCタンク、PC斜張橋ならびに鋼・コンクリート合成構造に関する研究
5. コンクリート部材の衝撃挙動に関する研究
6. コンクリート構造物の耐久性と診断、補修・補強、性能改善に関する研究

以上のように、会長のご研究の範囲は非常に幅広く、フレッシュコンクリートからコンクリート構造物の補修補強にまで及んでいます。なかでもその中心をなすものはPCのご研究であり、特に 3.「プレテンション・ポストテンションPC部材の定着部および断面急変部に関する研究」においては、複雑な応力状態を示すPC部材の定着部および断面急変部の挙動を明らかにするとともに有効な設計方針を確立され、さらには合理的な補強方法をも提案され、今日のPC発展の基礎を築かれました。これらのご業績に対して、昭和45年5月日本材料学会論文賞、昭和48年5月および平成8年5月セメント協会論文賞、昭和51年

◇計報◇

5月 関西道路研究会優秀研究賞を受賞されています。

また、これまでのご研究の成果は最新土木材料(森北出版, 昭和50年共著), プレストレストコンクリート構造学(国民科学社, 昭和54年共著), プレストレストコンクリートの力学(技報堂出版, 昭和56年共著), 最新コンクリート工学(国民科学社, 昭和61年共著)等の著書にとりまとめられています。

更に, (社)土木学会, (社)日本材料学会 等各種学協会におけるご活動には積極的に参画され, 特に本協会にはとりわけご関心が高く早くから会員としてご活躍され, 昭和59年5月 理事に就任, 平成7年5月に副会長, 同9年5月には第21代会長に就任されたばかりでありました。この永きにわたり本協会の事業目的達成のため常にPC技術の第一人者でありつづけられ, 天性の資質はいよいよ深まり内外の万人から敬愛を集められました。本協会会員は三千数百に達するに至り, 関係者並びに会員一同哀惜に涙し悲しみと嘆きは何時尽きるときがあらましようか。ここに故藤井会長のご徳誉を偲びつつ本協会の発展にご尽力されましたことに深く感謝の意を表します。

故藤井会長 どうか安らかにお眠り賜んことを。 合掌

【*オリエンタル建設(株) 常務取締役・本協会副会長】